

# 清原氏の柵 大鳥井山遺跡の区画施設と金沢柵推定地の調査成果

島田祐悦（横手市教育委員会）

## 1. はじめに

### (1) 横手市の後三年合戦関連遺跡調査事業

#### ① 後三年合戦関連遺跡第1次3カ年計画（大鳥井山遺跡3カ年計画）

- ・平成19（2007）年～平成21（2009）年
- ・未調査だった大鳥井山西部地区（四面庇建物⇒寺院）と小吉山西部地区（先祖墓）を確認。
- ・横手市教育委員会 2009『大鳥井山遺跡総括報告書』横手市文化財調査報告第12集を経て、平成22（2010）年に国指定史跡へ。

#### ② 後三年合戦関連遺跡第2次5カ年計画（金沢柵推定地第1次5カ年計画（陣館遺跡））

- ・平成22（2010）年～平成26（2014）年
- ・大鳥井山遺跡の立地と地形を考慮し、陣館遺跡の調査を開始する。
- ・結果、北東地区で寺院とみられる四面庇建物を、南東地区で鉄鍋とかわらけを金沢地区で初めて確認。横手市教育委員会 2016.17『陣館遺跡総括報告書』横手市文化財調査報告第38.40集を経て、平成29（2017）年に国指定史跡へ。

#### ③ 後三年合戦関連遺跡第3次5カ年計画（金沢柵推定地第2次5カ年計画（金沢城跡））

- ・平成27（2015）年～令和元（2019）年
- ・陣館遺跡だけでは金沢柵としては狭すぎるとの意見から再度金沢城跡の古い様相を示す、西の丸・南東尾根部・西麓部の景正功名塚の3地区の調査を開始する。
- ・結果、西の丸を含む金沢城跡一帯は14世紀後半から16世紀の大規模な中世城郭である金沢城と判明。良好に残る南部氏から小野寺氏へ続く山城。しかし、金沢柵の遺構検出は困難となる。
- ・だが南東尾根部では、大鳥井山と類似する堀で区画された集落が確認され、西麓部の景正功名塚付近では、近現代の物見櫓の下層から布掘溝に柱穴列を伴う柵跡を発見する。

#### ④ 後三年合戦関連遺跡第4次5カ年計画（金沢推定地第3次5カ年計画（金沢城跡西麓部））

- ・令和2（2020）年～令和6（2024）年の計画で、今年で3年目。
- ・上記成果を受けて、金沢城跡西麓部に金沢柵の本体である館があると想定し調査を開始する。
- ・最終年には総括報告書を作成する。「金沢柵跡」となるか「金沢城跡」となるかは今後次第。

#### ⑤ 後三年合戦関連遺跡第5次●カ年計画 \* 予定（沼柵推定地（沼館城跡周辺・造山遺跡群））

- ・令和7（2025）年～
- ・沼柵推定地の沼館城跡本丸の調査を行い、中世沼館城の年代を確認する一方で、古代沼柵の痕跡が残っているか確認する必要がある。

### (2) 国史跡大鳥井山遺跡整備計画策定事業

- ・令和7（2025）年～令和8（2026）年予定。
- ・史跡大鳥井山遺跡附陣館遺跡の整備基本計画の策定。
- ・大鳥公園を今後、どのように整備し、活用できるかを検討する。

## 2. 清原氏の柵 大鳥井山遺跡の区画施設【図1～6、表1.2】

### (1) 大鳥井山遺跡の概要【図1】

- ・秋田県横手盆地の中部東縁に位置する。10世紀後半から11世紀末の居館跡で、主要部周囲を大規模な土塁と空堀が二重に巡り、防御性の高い居館であることが確認された。前九年合戦の経過を述べた『陸奥話記』に記される清原光頼・頼遠の居館跡と考えられる（文化遺産オンライン）。

### (2) 大鳥井山遺跡の地形と立地【図1】

- ・遺跡は小吉山と大鳥井山の南北に並ぶ2つの独立丘陵に立地し、北の小吉山は南北約440m、東西約220mの東側にやや突出した弓形、南の大鳥井山は南北約200m、東西約240mの洋ナシ形。
- ・両丘陵の東側に旧羽州街道が南北に縦貫し、遺跡との間には溜池があった。街道を挟んで東側には別の独立丘陵の台処館跡が立地する。
- ・遺跡の西側を横手川が北流し、北側を吉沢川が、南側を明永川が西流しともに横手川に注ぐため東側以外は河川によって取り囲まれる格好となっている。

### (3) 大鳥井山遺跡の堀と土塁【図1～6、表1】

- ・堀と土塁は、大鳥井山遺跡の小吉山と大鳥井山の双方にあり、街道から見える場所に構築している。街道から見えない場所にはなく、その場所は急崖となっている。
- ・小吉山は、北部地区の北側から東側の平坦地端斜面、それに連なる東部地区から南部地区の平坦地端斜面に二重の堀と土塁が構築されている。
- ・大鳥井山は、北側から東側の山斜面に二重の土塁と堀が構築され、さらに大鳥井山の北東側には小吉山から連なる三重の堀と土塁が大鳥井山を囲んでいる可能性がある。

### (4) 大鳥井山遺跡の柵（布掘りに柱穴列）【図1～6、表2】

- ・柵は、小吉山と大鳥井山と双方で確認されているが、明確なのは小吉山である。
- ・小吉山北部地区南側や東部地区東端では、櫓状建物とともに柵が検出されている。
- ・柵は小吉山北部地区南側の5SA51を除き、全て布掘溝に柱穴列が確認されている。幅は20～30cmで深さは20～50cmの範囲である。

## 3. 金沢柵推定地金沢城跡（第14次）の調査成果【図7.8】

### (1) 調査要項

調査遺跡：金沢城跡（横手市金沢中野字根小屋）

目的：令和3年度の調査で検出された堀らしき遺構と柵跡、そして大型掘り方の全容を明らかにするため、令和4年度は前年度の調査区を拡張して調査を実施する。

調査位置：金沢城跡西麓部

調査面積：122㎡（面積は少ないが、かなりの深さを掘っている。）

調査期間：令和4年9月1日～11月18日

調査体制：横手市教育委員会

調査員1名・発掘調査技師2名・発掘調査補助員10名

調査指導：後三年合戦関連遺跡整備指導委員会・後三年合戦史跡検討会  
文化庁・秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室

## (2) 調査成果（令和4年12月12日現在）

### 【近現代】

- ・昨年度、大型建物の柱穴と考えた遺構⇒調査の結果、近現代のゴミ（針金・ビー玉等）が入っていた。後世にゴミが紛れ込んだ可能性もあるが、杉を抜き取った際の痕跡と考えられた。

### 【中世末から近世初頭】

- ・現在目視できる段状地形⇒段状に構成する平場の縁部分は直線的に作られている。調査の結果、1.5mの盛土が確認され、その下層で旧地形と遺構が確認された。おそらく自然地形を利用した時期の遺構の山側を削り、その排出された土を谷側に押し、平坦で直線的な段状地形を作りあげたのであろう。それは一昨年に調査した尾根北側と同じ状況で、盛土の下からも遺構面（生活面）が確認された。この盛土からは、瀬戸大窯や染付が出土したことから、中世末期（16世紀）に現地地形が構築されたと想定される。
- ・14SD01 溝跡⇒幅50～80cmの溝跡。現地形に合わせて溝跡が屈曲している。この遺構の確認面からは、中世末期から近世初頭（16世紀末～17世紀初頭）の唐津皿が出土した。

### 【中世末以前】

- ・13SD01 柵跡⇒布掘溝に構築された丸太材もしくは板材。幅20～30cm、深さ15～20cmの溝跡に丸太材や板材の痕跡が見られた。痕跡は密である。中世以降の切土により上面が削平されている。柵の上位には平場が存在している。
- ・14SD23 板塀跡⇒布掘溝に構築された板塀。中世以降の切土により、深さが10cm未満で、遺構の残りが悪い。長さ15cm、幅8cmの板材痕跡を中心に、その両脇に痕跡が3つ並んでいた。
- ・14SD09 溝跡古段階⇒東西に延びる北側は、断面が鍋底状の溝で柱痕跡は無かった。上面は14SD09 溝跡新段階に切られている。上面幅は40～80cm、深さ10～20cm。南北に延びる南側は、上面幅30cm、深さ20cmで、上から真っすぐ掘られていたことから、布掘溝に丸太材列の可能性が高い。これらが連結しているため、一帯となった古い区画施設の可能性もある。
- ・14SD09 溝跡新段階⇒東西に延びる溝跡で、14SD09 溝跡古段階を切る。上面の13SD01 柵跡と並行関係にあり、柵と堀の収束場所は同じ位置関係にあることから同時に存在していた可能性は高い。この溝の壁立ち上がりは、山側がやや外傾するが、ほぼ垂直である。谷側は不明瞭であったが、一部のトレンチで立ち上がりが確認されたため、その上面幅を推測すると上面幅2.2m、下幅1.8mで、深さは30cmを測る。断面形は逆台形と考えられることから、柵とセットになった堀の可能性は高いと思われる。堀の堆積土は、黄褐色土や赤褐色土などが混じっており、これは堀の上にある尾根斜面の地山土由来と思われる。堀は一気に埋められ、その後は斜面から崩壊したもろい黄褐色土の地山が自然堆積したと想定される。

## (3) 最後に

- ・金沢地区で、後三年合戦の遺跡の特徴である堀と柵が今回初めて並立する形で見つかると期待したが、出土遺物がなかったため、堀と柵の年代については慎重を期す必要があった。今回のシンポジウムで、遺構から議論を高められることを期待している。

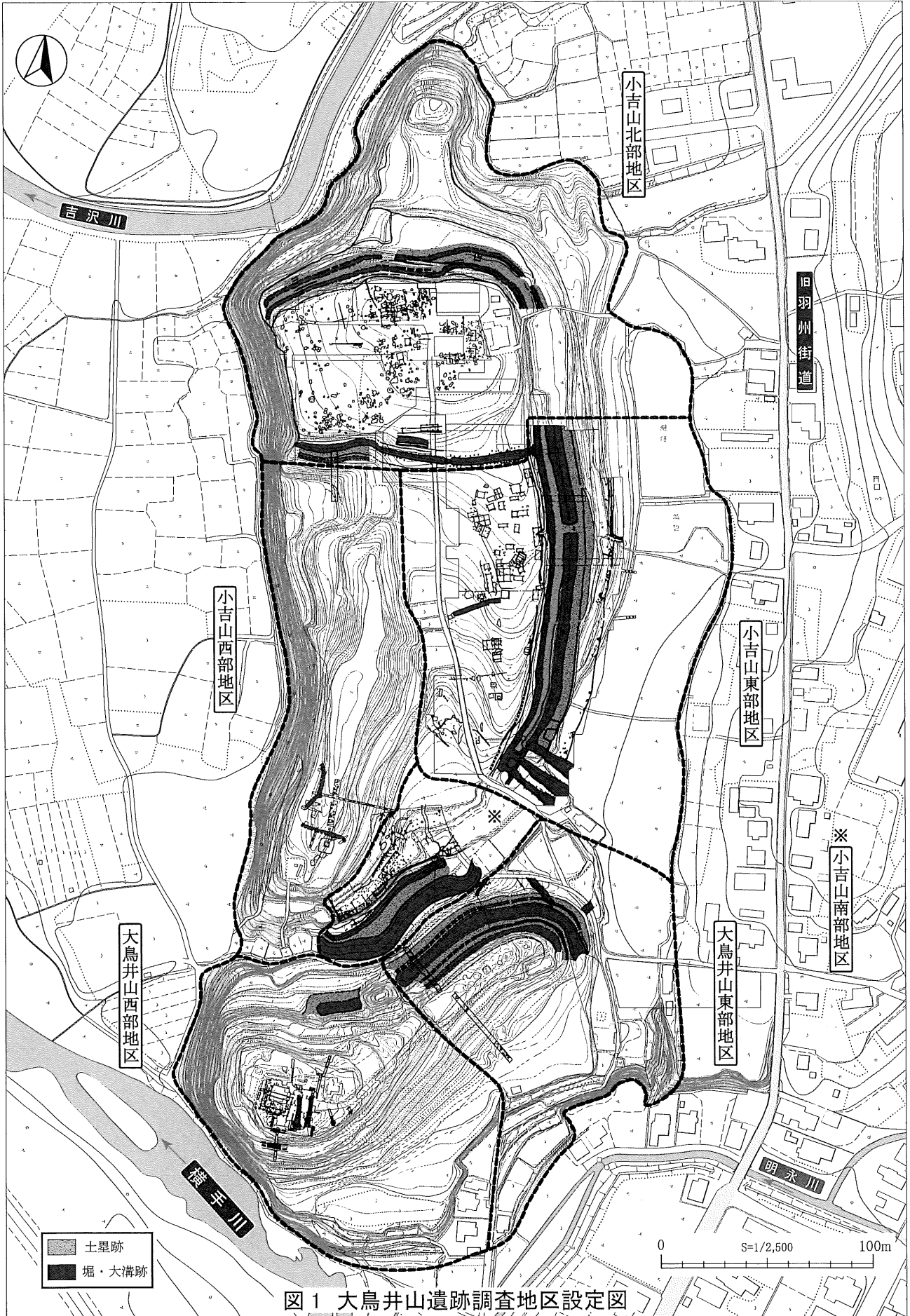


图 1 大鳥井山遺跡調査地区設定図

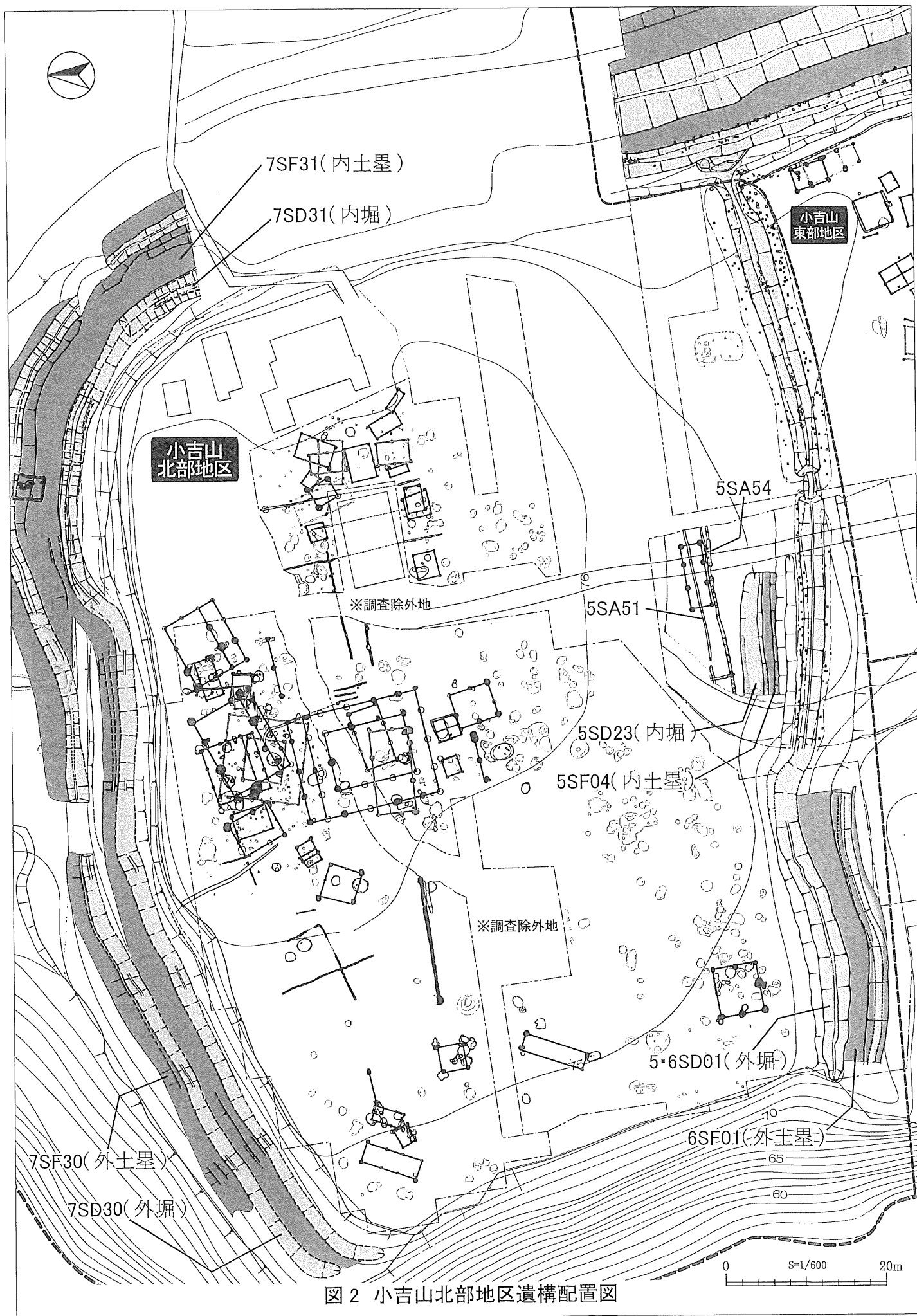
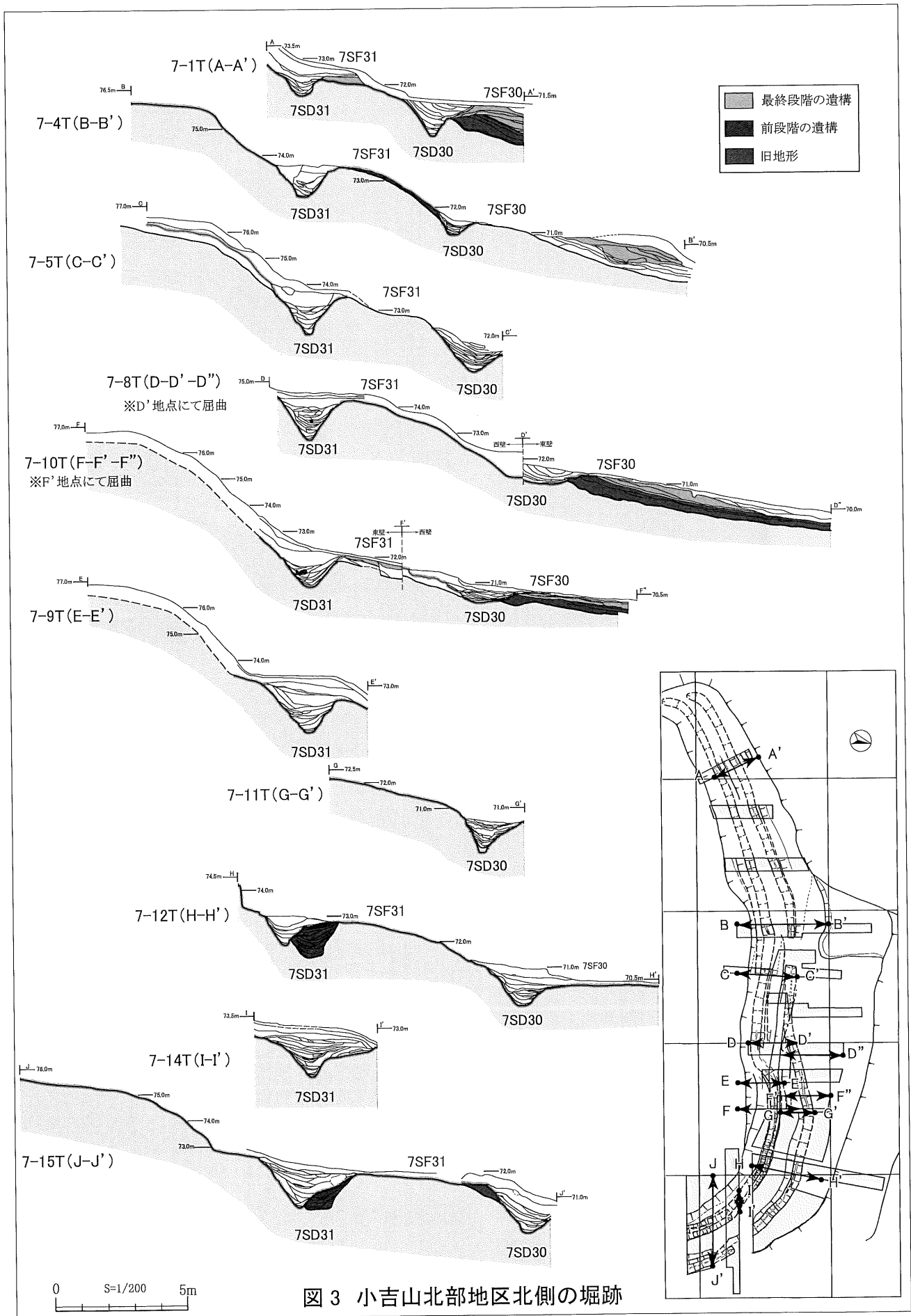


图2 小吉山北部地区遺構配置図



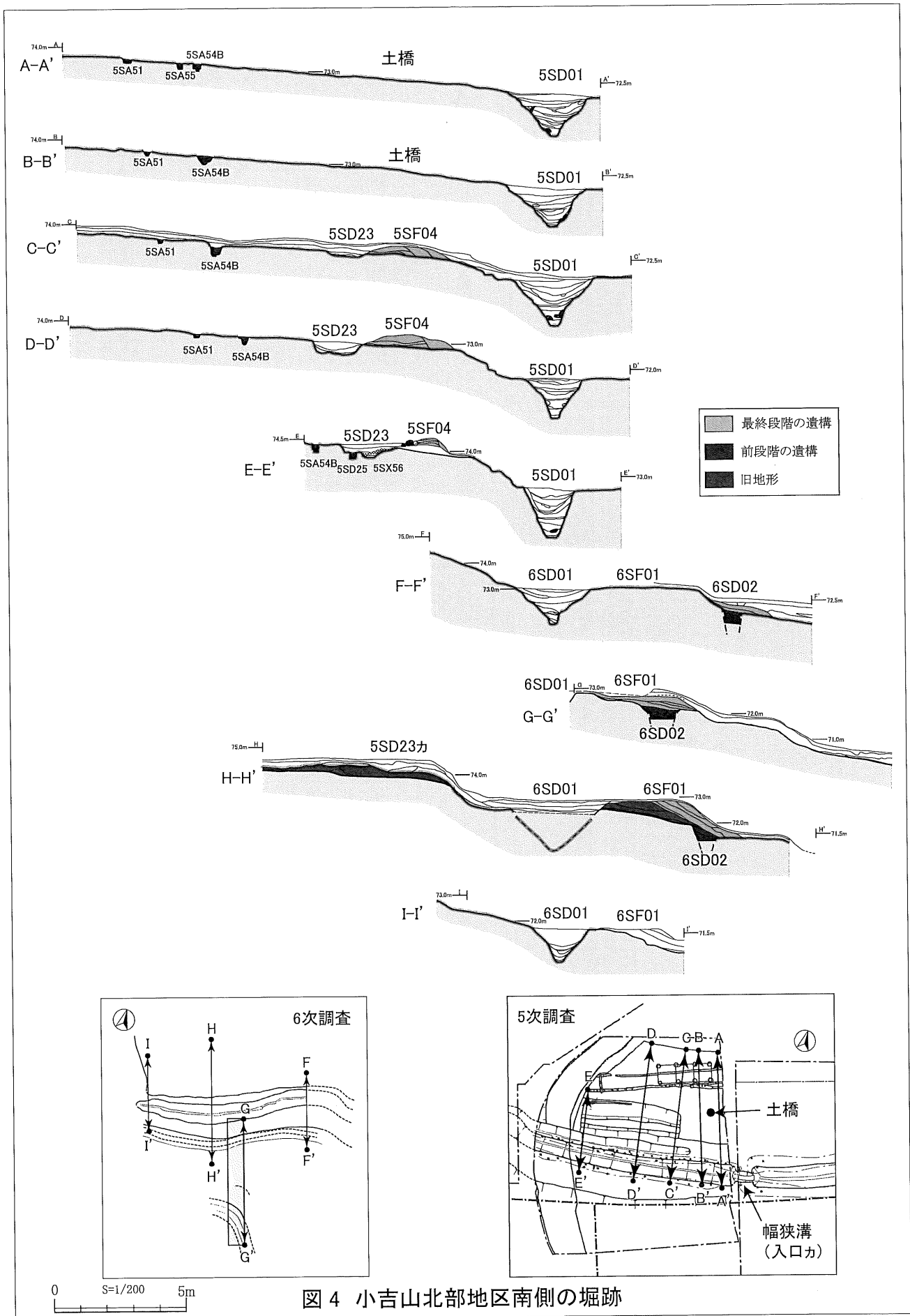


図4 小吉山北部地区南側の堀跡



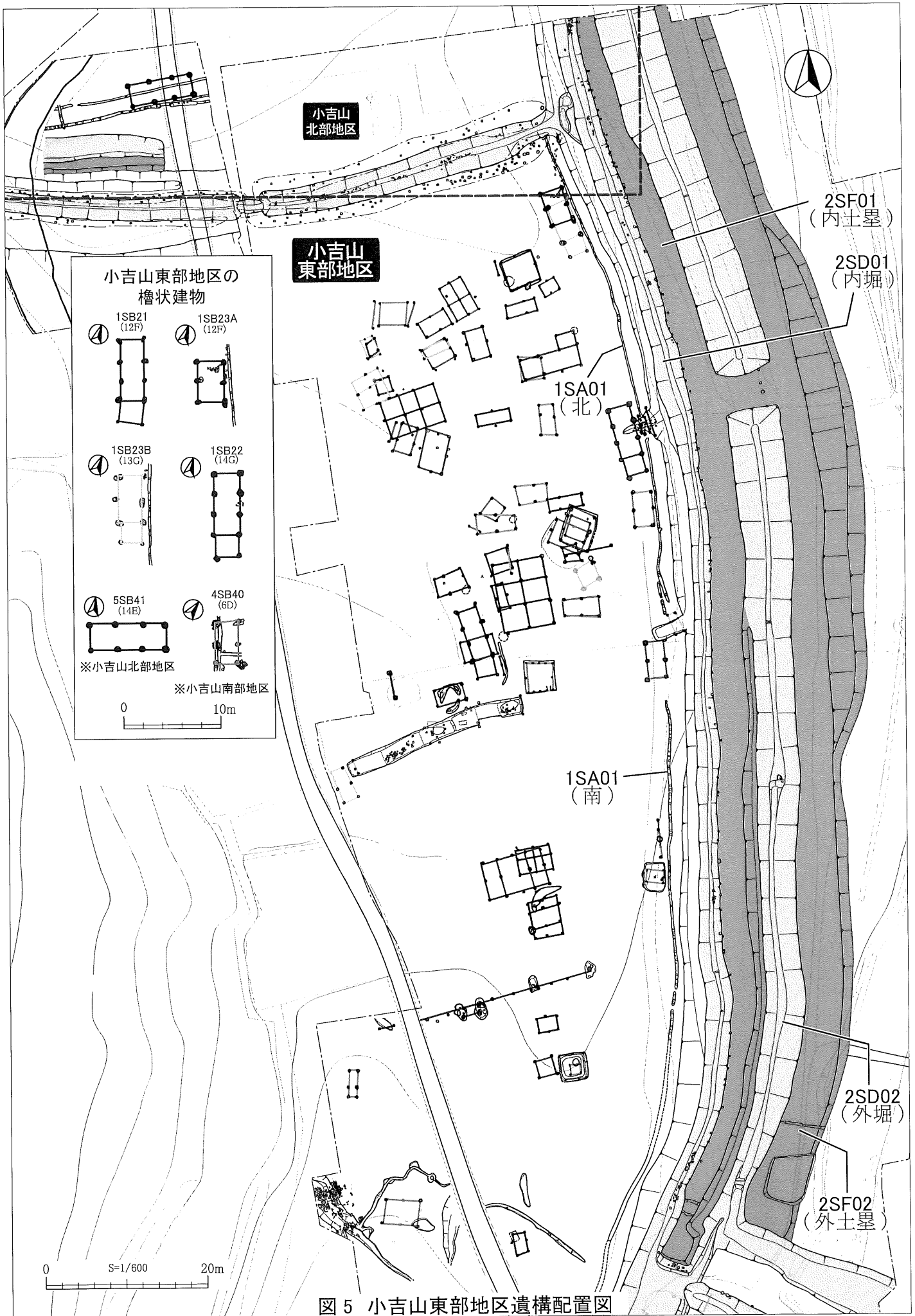


図5 小吉山東部地区遺構配置図



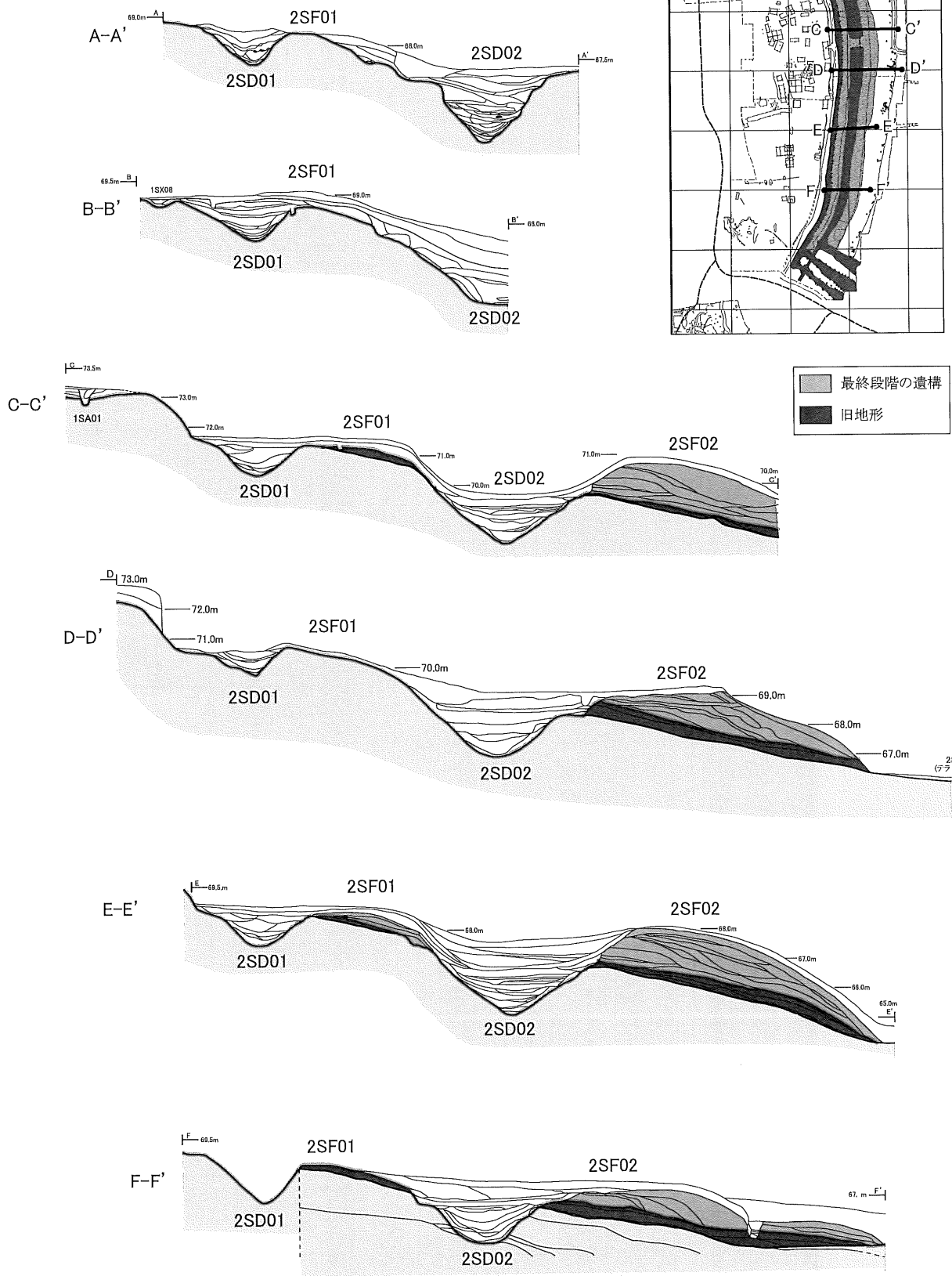


図6 小吉山東部地区の堀跡

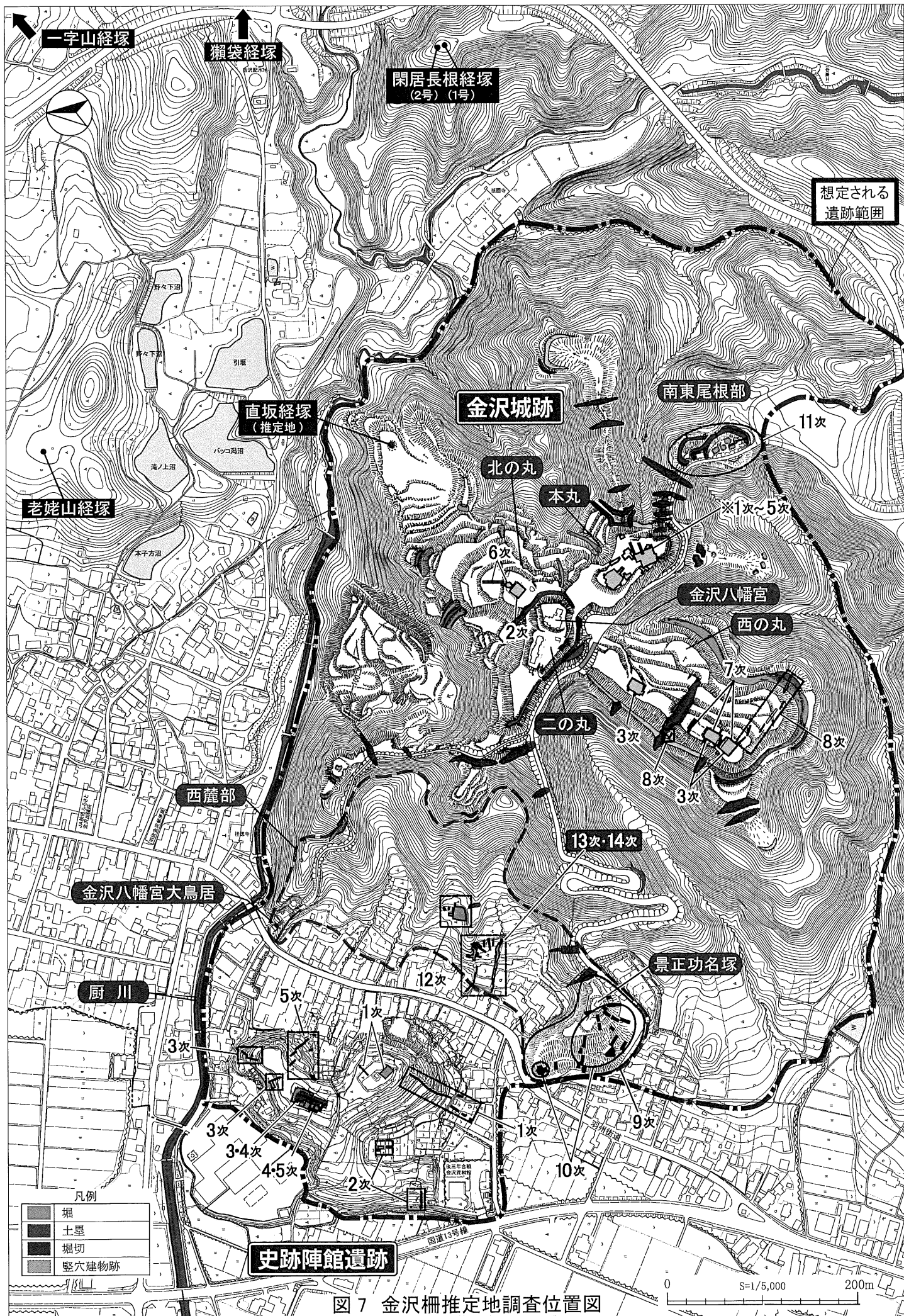


図7 金沢柵推定地調査位置図

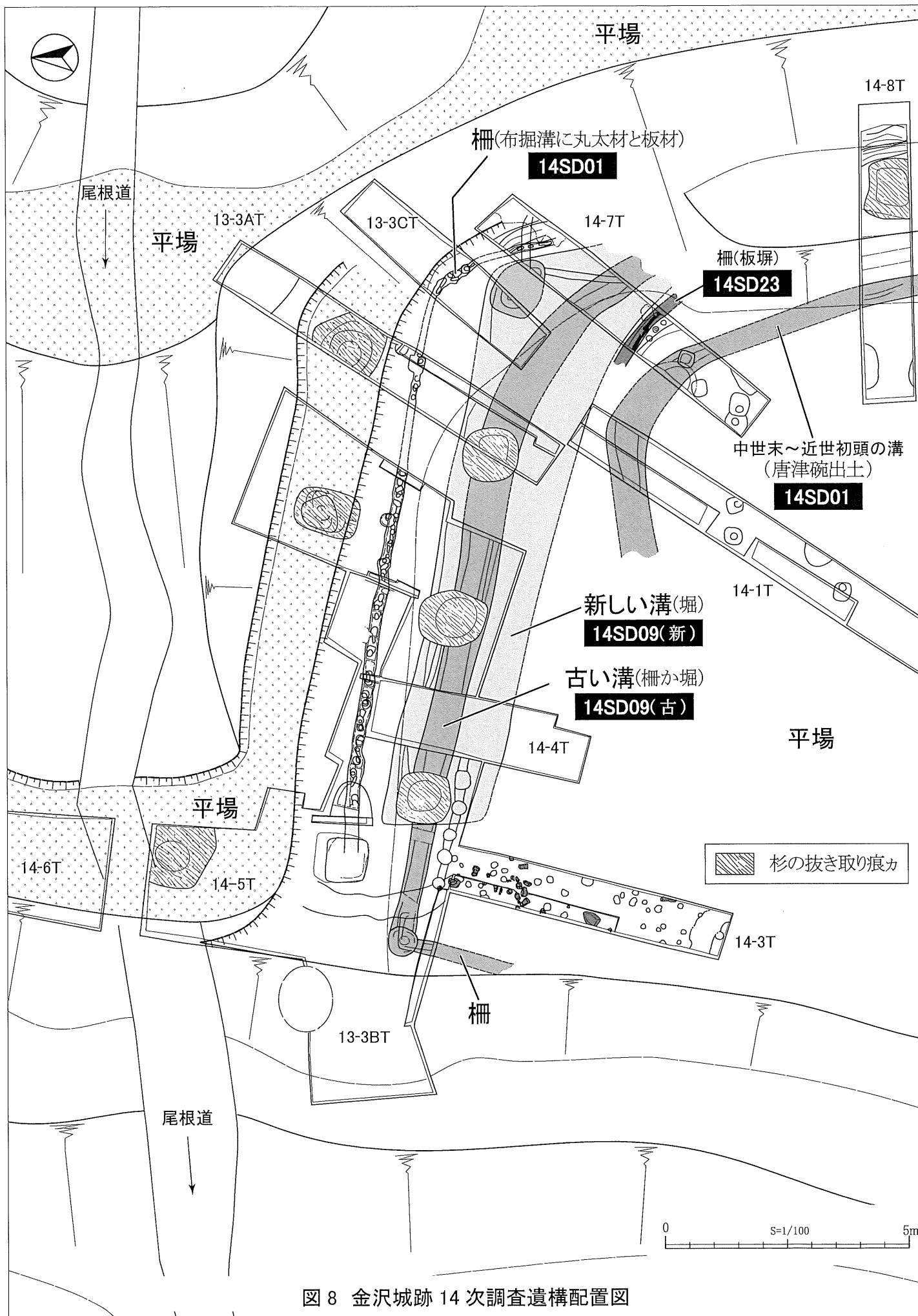


図8 金沢城跡 14次調査遺構配置図

表1 大鳥井山遺跡・金沢柵推定地(金沢城跡西麓部)の土塁・堀の状況 (単位:m)

図●/ 遺跡 地区 遺構名	内堀						内土塁(B)			外堀				外土塁(D)			平場 から 残存 外土 塁部 での 総長 :m	平場 から 外堀 深 :m		
	ト レン チ ・ S P	堀 の 断 面 形	堀 上 幅	堀 下 幅	堀 深 度	平 場 か ら 内 堀 底 深	残 存 基 底 幅	残 存 上 幅	残 存 最 大 高	堀 の 断 面 形	堀 上 幅	堀 下 幅	堀 深 度	内 土 塁 頂 部 堀 底 深	残 存 基 底 幅	残 存 上 幅			残 存 最 大 高	
図3/大鳥井山 小吉山北部 7SD31内堀 7SF31内土塁 7SD30外堀 7SF31外土塁	1	薬研状	1.6	0.2	0.8	—	2.0	1.3	0.3	薬研状	2.7	0.2	1.3	2.5	—	1.5	1.3	—	—	
	4	薬研状	2.3	0.4	1.2	3.3	4.0	1.5	0.1	逆台形	1.5	0.4	0.6	2.5	7.0	2.4	0.7	15.0	5.0	
	5	薬研状	2.8	0.2	1.6	4.4	3.0	—	—	薬研状	3.2	0.1	1.5	2.8	—	—	—	—	5.8	
	8	薬研状	2.5	0.2	1.6	—	3.8	—	—	鍋底状	4.0	0.1	0.7	3.0	6.0	3.0	0.4	—	—	
	9	薬研状	3.0	0.3	1.6	4.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	10	薬研状	2.4	0.2	1.4	5.4	4.2	2.2	0.2	鍋底状	2.5	0.1	0.5	2.0	—	—	0.6	16.0	6.4	
	11	—	—	—	—	—	4.5	—	—	薬研状	2.2	0.2	1.8	—	—	—	—	—	—	
	12古	逆台形	2.0	0.8	1.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	12新	薬研状	2.4	0.2	1.1	2.3	4.0	—	—	逆台形	2.5	0.4	0.7	3.2	—	—	—	—	—	
	14	薬研状	3.0	0.2	1.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	15古	逆台形	2.0	0.9	1.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	15新	薬研状	3.8	0.2	1.5	4.5	5.0	—	—	薬研状	2.8	0.2	1.5	2.5	—	—	—	—	5.4	
	図4/大鳥井山 小吉山北部 5SD23内堀 5SF04内土塁 5.6SD01外堀 6SF01外土塁	C	逆台形	1.5	1.0	0.3	0.8	3.4	1.8	0.4	薬研状	3.0	0.2	2.0	3.0	—	—	—	—	2.8
		D	逆台形	1.8	1.3	0.4	0.6	3.2	2.2	0.5	薬研状	2.0	0.2	1.5	3.4	—	—	—	—	3.1
		E	逆台形	2.0	1.2	0.3	0.7	3.0	1.2	0.5	薬研状	1.8	0.3	1.9	3.7	—	—	—	—	3.4
F		—	—	—	—	—	—	—	—	薬研状	3.0	0.2	1.4	3.7	4.2	—	—	—	—	
G		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.7	3.8	0.5	—	—	
H		—	—	—	—	—	—	—	—	薬研状	3.2	—	—	—	5.4	3.3	1.5	—	—	
A		薬研状	2.8	0.3	1.2	—	1.0	—	—	薬研状	3.7	0.3	2.2	3.9	—	—	—	—	—	
B		薬研状	4.0	0.2	1.3	—	2.4	1.5	0.3	薬研状	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
図6/大鳥井山 小吉山東部 2SD01内堀 2SF01内土塁 2SD02外堀 2SF02外土塁	C	薬研状	3.2	0.2	1.0	3.0	4.0	2.8	0.4	薬研状	6.0	0.3	1.5	3.2	—	2.0	1.5	18.0	5.2	
	D	薬研状	2.6	0.1	0.9	3.0	3.5	—	—	鍋底状	6.0	0.1	1.5	3.6	10.0	4.2	1.8	16.0	5.2	
	E	鍋底状	3.0	0.1	1.0	3.0	4.3	2.4	0.5	薬研状	7.3	0.2	2.4	3.6	10.4	3.0	2.0	—	—	
	F	薬研状	3.2	0.1	1.4	—	4.0	2.0	0.3	鍋底状	5.7	0.1	1.5	2.5	12.0	3.5	2.2	—	—	
	A	薬研状	3.4	0.4	1.5	3.0	5.0	2.6	0.6	逆台形	—	—	—	2.4	*	*	*	*	4.6	
	B	薬研状	5.2	0.3	2.2	4.5	11.0	7.8	2.3	逆台形	10.0	4.0	2.6	4.6	*	*	*	*	6.2	
参考/大鳥井山 小吉山南部 4SD103内堀 4SF103内土塁 3SD04外堀	C	—	—	—	—	—	—	—	—	逆台形	8.0	3.4	2.2	—	*	*	*	*	—	
	D	薬研状	4.0	0.4	1.8	2.2	4.8	—	—	—	—	—	—	—	*	*	*	*	—	
	E	逆台形	3.5	0.9	1.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	*	*	*	*	—	
	F	薬研状	1.8	0.4	0.8	3.7	4.8	—	—	—	—	—	—	—	*	*	*	*	—	
	AB	薬研状	4.0	0.2	1.0	3.2	3.8	1.0	0.9	逆台形	5.8	3.5	1.5	4.2	7.0	1.0	1.9	17.2	6.8	
	A	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7.0	1.0	1.7	—	—	
参考/大鳥井山 大鳥井山東部 10SD02内堀 10SF02内土塁 10SD01外堀 10SF01外土塁	B	—	—	—	—	—	—	—	—	逆台形	8.0	4.2	2.1	3.6	6.7	1.0	1.6	—	—	
	C	—	—	—	—	—	—	—	—	逆台形	7.7	3.6	2.2	4.0	7.0	0.9	1.8	—	—	
	D	—	—	—	—	—	—	—	—	逆台形	7.2	3.5	2.0	3.8	6.1	0.8	2.0	—	—	
	E	—	—	—	—	—	—	—	—	逆台形	6.9	3.0	1.9	3.4	6.4	0.7	1.6	—	—	

(備考) —は未調査か部分調査のため、測定できず。\*は存在せず、大鳥井山東部の土塁がある。

図8/金沢 14SD09(古) 14SD09(新)	古A	鍋底状	0.8	0.2	0.2	4.4	*古い溝は新しい溝(堀)に切られている。南側で布掘溝と連結。 *土塁があったかは不明。			
	古B	鍋底状	0.4	0.2	0.1	—				
	新C	逆台形	2.2	1.8	0.3	4.1	*北壁が残り、南側はかろうじて南壁の底が一部で残っているのみ。土塁があったかもしれないが、中世後期以降の整地地業により不明。			

表2 大鳥井山遺跡・金沢柵推定地(金沢城跡)の柵(布掘溝に柱穴列・板塀)の状況 (単位:m)

図●/遺跡名・地区	遺構名	溝総長	溝幅	溝深さ	柱穴等有無	規格	特徴
図2.4/大鳥井山 小吉山北部南側	5SA51	16m	0.2~0.3	0.15~0.2	なし		
	5SA54	21m	0.3~0.4	0.2~0.4	有り・円形	0.2	布掘溝に柱穴列(丸太材列)
図5.6/大鳥井山 小吉山東部東側	1SA01	北60m	0.2~0.3	0.5	有り・円形	0.15~0.2	布掘溝に柱穴列(丸太材列)
	1SA01	南42m	0.2~0.3	0.5	有り・円形	0.15~0.2	布掘溝に柱穴列(丸太材列)
参考/大鳥井山 小吉山南部	3SA33	52m	0.2~0.3	0.2	有り・円形	0.15~0.2	布掘溝に柱穴列(丸太材列)
	3SA34	10m	0.2~0.3	0.5	有り・円形	0.15~0.2	布掘溝に柱穴列(丸太材列)
参考/金沢西麓部 金沢公園入口付近	10 SA01	10m	0.7~0.9	0.15~0.2	有り・円形	0.6の掘り方 に0.3の柱 痕跡	布掘溝に柱穴列(丸太材列)
	10SA02	10m	無し	無し	有り・円形	0.2~0.3	柱穴列(丸太材列)
今回図8/金沢西麓部 光蓮寺さん付近	13SD01	14m	0.2~0.3	0.15~0.2	有り・円形か 不整形	円形・不正 形とも0.15 ~0.2	布掘溝に柱穴列(丸太材列と板材列が混じる か?)
	14SD23	1m	0.2	0.1~0.15	有り・板塀か	長さ0.15、 幅0.08	板材列